

さんま通信

秋

厚生中央病院だより 第47号 2016年

栄養を考える

NST専門療法士 がん病態栄養専門管理栄養士 嶋崎 愛子

栄養不足（低栄養）とは？

最近、病院の入院・外来患者さんには栄養不足の患者さんが予想以上に多いことが注目されています。低栄養は、年齢や性別、疾病の有無にかかわらず誰にでもおこります。食欲不振や偏食等が続くと、気づかぬうちに栄養素が不足し、低栄養状態になることもあります。

栄養不足（低栄養）を把握する方法は？

栄養不足の診断は病歴、食事歴、身体計測、血液生化学検査等で行われます。

食欲不振の有無・絶食があればその期間、食事の内容、消化器症状の有無、薬物の使用歴等で総合的に栄養状態を把握します。

栄養サポートチーム（NST）とは？

①NSTと呼ばれ、Nutrition Support Teamの頭文字をとった略称で、日本語に訳すと「栄養サポートチーム」です。チームは、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、言語聴覚士等多くの専門スタッフで構成され、各患者さんについて「栄養不良になっていないか」「栄養がどれくらい必要か」「どのようにして栄養を摂るのが良いか」等を話し合います。

NSTとはよりよい栄養について考えていく、「チーム医療」なのです。

②栄養が足りていなければ、どんな治療も十分な効果を発揮することができません。よって、最善の栄養管理を受けることが、患者さんの一日も早い回復につながり、私たちは栄養療法を通じみなさまを支援させていただきます。

③NSTの効果は、栄養管理により創傷治癒の促進、合併症発生率の低下、死亡率・罹病率の低下、入院期間の短縮、医療費の節減などが挙げられており、全国の各医療施設が積極的にNSTを導入しています。

当院の栄養サポートチーム（NST）では...

①入院中の患者さんを対象に、週1回のNSTチームによるカンファレンス及び回診を行っています。

②NSTのメンバーは、栄養療法に関わる一定の教育を修了したスタッフで構成されています。

③全ての患者さんがそれぞれに応じた適切な栄養療法を受けることができるよう、活動しています。

最後に

栄養をどのように摂るかは各個人で異なってきます。そのかたの生活の質（QOL）とも関わりが深いため、各患者さんに合った栄養療法により、これからもチームとしてみなさまの栄養をサポートさせていただきます！



目次 contents

栄養を考える 1

新医師臨床研修病院について 2~3

荒神 裕之医師が東京消防庁から感謝状を受けました。
「出産」という人生の大きなイベントを当院で! 4

どうして？
さんま通信の

目黒で野駈けをしていた殿様が、初めて召しあがる“さんま”にいたく感激。お城で再び食べてみたが、美味しくない。即座に『さんまは目黒に限る！』
当院も“目黒のさんま”でありたいとの願いを込めて。

新医師臨床研修病院について

厚生中央病院 研修指導担当
プログラム責任者

脳神経外科統括部長 橋木 治うつき おさむ

当院は「新医師臨床研修指導施設」に認定されており、1年次5名、2年次5名の合計10名の研修医が勤務し研鑽に励んでいます。

簡単に「新医師臨床研修制度」についてご説明します。昭和21年にいわゆるインターン制度が創設されましたが、医師ではない医学生が診療することや、身分保障が無いなどの問題があり、当時の学生運動の高まりとともに、昭和43年に廃止になったことは多くの方がご存知だと思います。初期臨床研修というとインターンというイメージが未だに強いのかもかもしれません。

現在行われている「新医師臨床研修制度」は、それまでの臨床研修制度の問題点を改善すべく平成16年に施行されました。

施行以前は、医学部を卒業した医師の7割が母校か、他の大学病院で研修を受け、さらにはすぐに専門科に入局しストレート研修であったため、学位授与権などを背景に大学の権限が大きくなりすぎていました。言葉は悪いですが、いわゆる「研修医の奴隷化」「専門馬鹿」などの問題点が指摘されていました。

我々の時代は昼夜を問わずに24時間拘束され、月3万円の給料しかもらえず、眠い目をしながら週1回のアルバイト病院で日銭を貰って生活するというようなものでした。とても安い労働力で大学病院は支えられていたというのも事実でした。

そこで「新研修制度」は、きちんと基準を満たした市中病院も研修指導施設として認め、研修医は2年間の研修中、広く多くの科をローテーションし、プライマリーケアの診療能力を習得するとともに、経済的な保障も行われました。

しかしながら、「新研修制度」の素晴らしい理念にも関わらず、医療界を揺るがす大きな問題点がすぐに明らかになってしまいました。

それは大学病院の権限が低下したために、若い医師が、人手の少ない地方の大学病院や市中病院には残らず、またリスクの高い外科系診療科をも敬遠し、人的余裕のある大都市病院へと移動し始めてしまったことです。

それまでは地方の大学出身者はその大学の支配下に置かれ、嫌々ながらも大学から派遣されて、地方の医療を担ってきたという現実がありました。それがもろくも崩れてしまい、現在の医師不足を引き起こしてしまいました。正しくは医師不足ではなく「医師の偏在化」です。

「奴隷解放により、研修医の人権を認める」というパンドラの箱を開けてしまうことになったのです。

もちろん医師と言っても、人権は守られるべきなのは当然で後戻りはできないのですが、地方病院や外科系診療科では、確かに医師不足は深刻です。従って現在では国もいろいろな手を打っ

て「医師の偏在化」を解消しようとしています。ある程度の強制力を持たせないかぎり、実現は難しいかもしれません。

当院に立ち戻ると、厚生中央病院は幸いにも研修にちょうどよい中規模の320床の総合病院です。立地条件もよく、多くの優秀な指導医がいるため、研修医にはとても人気のある病院で、毎年数倍の競争率を勝ち抜いた優秀な研修医が集まります。

当院だけでなく東京医科大学、東邦大学、聖マリアンナ大学の3大学での研修も行えるという点も人気の秘密のようです。また近隣の開業医の先生にもご協力をいただいて実地医療の良い研修が行えています。

これからの20年間、病院では団塊の世代の患者さんが増え続けるという予想があり、当院は未来を支える医師を育てるという、大切な責務を担っていると思います。

それと同時に、医療費の削減は人口構成的にも不可避であり、医療環境は厳しくならざるを得ません。しかも人工知能AIの進歩などで過去20年の経験では計り知れない変化をきたすことだと思います。

しかし、そのような世の中になったとしても、医療者と患者さんの関係には普遍のものがあるはず。 「信頼感を基本とした人間的な関わり」は、いくらAIが発達しても、なくなるものとは信じています。

「厚生中央病院で研修した連中はよくできるね～」と、他の大学の先生や患者さんから言われるように指導していきたいと思っています。

場合によっては、患者さんに心許ない思いをさせてしまうこともあるかもしれません。「医師を育てるのは患者である。」というのはまさしく正論です。

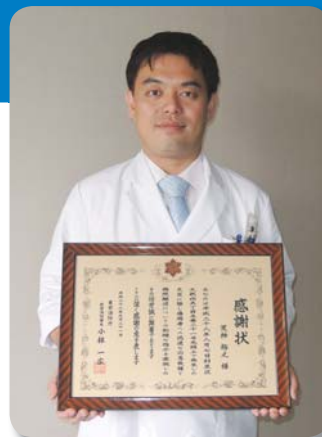
医療事故を起こさぬよう、指導医が万全のサポートを行います。 「将来の医療を担う優秀な医師」になるよう、皆さんで育ててくださるよう何卒よろしくお願い申し上げます。



荒神 裕之医師が 東京消防庁から感謝状を受けました。

平成28年8月7日 午後7時半過ぎ、杉並区久我山の京王井の頭線富士見ヶ丘駅前の商店街で行われていた七夕祭りのサンパレードに複数の火炎瓶が投げ込まれ、15人が負傷するという事件がありました。

当日居合わせていた荒神裕之医師は、事件現場で応急救護及び初期対応を行い、そのことで東京消防庁荻窪署長から9月21日に感謝状を受けました。



「出産」という人生の大きなイベントを当院で!

出産という大きなイベント… 施設選びをどのようにしたら良いか、
当院の産科をご紹介します。



🏠 当院の産科は、顔が見える関係づくりを心がけています

産婦人科外来のスタッフは医師も看護師も**病棟と同じメンバー**で、「一体化看護」体制をとっています。外来でよく見かけるスタッフが、入院中もサポートします。みなさん、安心して出産に来てください。

👩 当院の助産師が、お母様方をサポートしています

「助産師外来」

妊婦健診を助産師が担当します。音楽を聴きながら、ハーブティーを飲みながら、時間をかけて健診いたしますので、わからない事、不安な事があれば何でも聞いて下さい。

「母乳外来」

乳房マッサージ、育児相談、卒乳相談、ベビーの体重チェックなど様々なことに対応します。

「育児クラス」

生後1～6か月のベビーとママ達が集まったの同窓会です。「話を聞いてほしい、久しぶりに外出してリフレッシュしたい」など日頃の思いをお聞かせください。

👪 お二人目以降の分娩は50,000円割引

当院で分娩される妊婦さまへの感謝の気持ちを込めて、経産婦のかたをご対象に「ふたりめから割引」を実施しています。

当院で分娩された方はもちろん、他院で分娩された方もご対象です!

🐣 より自然な分娩を

当院では、無痛分娩や予定日前の計画分娩は行っていません。出産は「赤ちゃんが生まれてきたい適切な時期に自然にその兆候が見られてくるもの」で、当院では自然な兆候を待ちます。計画分娩は、予定日が過ぎた場合に、担当医と相談の上、方針を決めていきます。

まずは、
見学だけでも構いません

当院を受診していただき、病棟の温かい空気、
明るい雰囲気を見に来てみませんか?
医師、看護スタッフ皆でお待ちしています。

